

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	HIYOKO STUDY小山教室		
○保護者評価実施期間	令和8年4月1日		～ 令和8年4月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和8年5月1日		～ 令和8年5月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用者様一人ひとりの特性に合わせ、丁寧に支援を行っている。職員間での情報共有も密に行い、同じ方向を向き一貫した支援を行っているのが強みである。また、日々の様子や変化を踏まえ、柔軟に対応も行っている。	・支援の質を上げていくため、日々職員間での情報共有や意見交換などを積極的に行っている。	・支援の一貫性を高めるため、記録内容の向上を行っている。 ・職員間で、事例検討を行い、より支援の深掘りが出来るようにしていく。
2	・保護者様へ対してのフィードバックを丁寧に行うことで、保護者様から相談しやすい関係性の構築を行っている。	・就学に向けての情報提供および情報共有を行い、就学に向けての第一歩になるようにしている。	・関係機関との連携を図り、利用者様の情報共有を確実にしていくとともに、保護者様も相談しやすい雰囲気を作っていく。
3	・公園を含む公共の場へ外出活動を行い、ルールやマナーを知る機会を設けている。	・科学館など公園以外の公共の場面を経験し、利用者様の興味関心の幅を広げるきっかけ作りを行っている。	・長期休みは小中学生と同じ時間帯での活動が増えるので、異年齢との関わりを増やし、異年齢児から学べる機会を設けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員間で情報提供を行っているものの、視点にばらつきが見られ、記録等に現れてしまう事がある。	・経験年数により、対応方法や判断に差が生じてしまう。	・記録に関しては、記載方法を統一できるようにしていく。 ・研修等に参加し、専門知識の向上を図っていく。
2	・保護者様への伝え方が、職員によって様々であり、うまく伝えきれないことがある。 ・HUGを使用し、保護者様へお伝えする事があるが、うまく機能しきれしていない。	・経験年数により、対応方法差が生じてしまう。 ・HUGを使用しているが、保護者様へもまだ浸透しきっていない。	・何を伝えるべきかを送迎前に明確にし、要点をわかりやすく伝えるようにしていく。 ・HUGツールをより保護者様へ浸透させるため、声掛けを行うなどの工夫を行っていく。
3	・活動内容の偏りが生じてしまう事もあり、特に外出活動での偏りが生じてしまう機会が多くなってしまっている。	・個々の特性を考えてしまうあまり、職員もやってみようという意識が低くなっている場合もある。	・利用者様が楽しんで参加してもらおう事をふまえ、活動内容を考慮していく。 ・利用者様にリクエストをしてもらうなどし、自分たちでも考え、参加することで楽しさがより増すような工夫を行っていく。